

## 柏本雄幸先生の御退任に際して

柏本雄幸先生は、二〇〇〇年（平成十二年）三月三十一日をもって、広島女学院大学文学部を御退職になられました。これまでの御高恩に感謝し、今後の御清祥を祈念して、日本文学会では本誌記念号を計画し、ここにめでたく刊行することが出来ました。

先生は、一九八一年（昭和五十六年）文学部日本文学科助教授に就任され、一九八六年（昭和六十一年）教授となられ、本年三月まで十九年間、日本文学科の中心的存在として研究と教育に携わって来られました。日本文学科主任、日本文学会会長を歴任され、近年は日本語教員養成課程主任を勤められました。講義科目として、日本語学概論、日本語音声学、日本語学特殊講義などを担当されました。最近の先生の研究対象は利休の書簡でした。学科研究会では、利休の謝意表現・敬語表現などについて学ばせていただきました。

先生の懇切丁寧な御指導は有名で、先生の熱意に惹かれて卒論を選んだ学生も多いと聞きます。夏休み中も多くの時間を卒論指導に当てていらっしゃいました。卒論の題目が明確でなかった学生に次回の宿題とされたが、再度提出した時には、先生も題目を考えていらっしゃったそうである。こうした親身な御指導は、先生教育理念「教育も研究も、基本は『人』であることを忘れずにいたい」（『展望 一九九四』一九九四年自己評価報告書より）とのお考えに基づくものだと思います。私たちに教師のある

べき姿をお示し下さいました。

また、通っていた夜間高校には先生が来ない、来てもすぐやめられる状態の中、先生は自らその高校の先生になろうと決意して、一九五四年（昭和二十九年）四月、広島大学教育学部高等学校教科国語科に入学されました。その努力には並々ならぬものがあつたと思いますが、何よりもその決意に敬服いたします。その後、更に大学院に進まれ、研究を深められましたが、残念ながらその高校はなくなり、その先生になることは出来なかったのですが、本学に来ていただくことが出来たのは私たちにとって幸いでした。

「私の天職は、先生でした。人生に感謝しています」（『広島女学院大学 キャンパス・ニュース』第一五〇号）とおっしゃったように、先生はいかなる艱難に対しても「神に感謝し、恵みの時」と思われる、真のキリスト者でいらつしやいます。先生が身をもって示された、学生への愛、人生への感謝の念を、私たちは深く心に受け止めたいと思います。

先生のこれからの人生が益々華やき、御健勝であらんことを心より祈念致します。

二〇〇〇年六月

広島女学院大学日本文学会会長 佐藤茂樹